

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 18 日現在

機関番号：33903

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531220

研究課題名(和文) 児童生徒が主体的な行動選択の力を身につけるための道徳指導法に関する研究

研究課題名(英文) The study on morality instruction method for students to acquire power of independent action choice

研究代表者

川口 洋誉 (Kawaguchi, Hirotaka)

愛知工業大学・工学部・准教授

研究者番号：60547983

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：(1)国内の道徳地域教材の収集・分析を通して、改定教育基本法における公共の精神や愛国心の強調とも関連付けながら、道徳教育における科学性・客観性の欠如とともに批判的分析を行った(2)民間出版社の副読本について、読み物教材として設定された場面において合理的・主体的行動の判断の余地を認めておらず、児童生徒の判断や行動の範囲を狭めるおそれがあることや現実的な判断・行動との乖離を指摘した。(3)福祉国家フィンランドにおける調査を通して、多様性の理解を進める一方で、愛国心については学校教育の範疇とせず、客観的事実にもとづく思考・判断を促す授業の展開がされていたことなどの見聞を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：(1)Through collection, the analysis of the domestic morality area teaching materials, I performed critical analysis with lack of the science-related objectivity in the moral education. (2)I pointed out the estrangement with a thing and the realistic judgment, action that might narrow the range of a judgment and the action of the child student without recognizing the room for judgment of the rational independent action about the side reader of the private publishing company in a scene set as the reading teaching materials. (3)The development of the class to promote a thought, the judgment based on the objective fact was able to get the information such as what was done without assuming it a category of the school education about the patriotism while I pushed forward understanding of the variety through an investigation in Finland.

研究分野：教育行政学

キーワード：道徳教育 愛国心教育 主体性育成

## 1. 研究開始当初の背景

学校の道徳指導に関する専門雑誌を見ると、近年は教育基本法改正に伴う教育課題の指導や情報モラルの指導、食育など、道徳指導上の新しい重要課題が取り上げられるようになっている。一方、授業場面における具体的な指導方法の開発としては、『心のノート』の利用やグループエンカウンター、社会的スキル学習などの心理学的プログラムによる自省的手法や人間関係形成のシミュレーションが盛んになっている。しかし、道徳の時間の学習において、児童生徒に真の意味での価値形成を促す指導法については、十分な検討がなされていない。指導法の不十分さから、道徳指導を忌避する教員も少なくない。道徳の授業では、教師の支持する価値が押し付けられたり、「答えはない」「いろいろな考え方がある」といった紋切り型の無責任な展開が用意されたりして、児童生徒が他者の意見を注意深く聞き、自分の頭で考え、よりよい行動について考える機会が設定されない。先に示した心理学的な手法は、心情を育てるには効果があるが、優れた価値判断や実際の行動選択のために、児童生徒がよく考量する場面を用意できるわけではない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、児童生徒が意味ある価値形成と行動選択のために、主体的な思考と意思決定の機会を用意できる道徳指導法の開発を行うことにある。その際、道徳の授業で広く使われている副読本の、教材としての利用法を見直し、模範的指導案を改善する。副読本の教材は、問題状況がうまく設定されているにもかかわらず、授業においては、行動について思考する課題が出されないために、深く考える機会を提供できていない。同時に、指導の根底となる、人権教育・環境教育といった新しい課題や、学校の学習環境・人間関

係の構築といった児童生徒の身近な道徳的形成の材料に注目し、指導が形骸化しないような課題の取り扱い方法を検討する。

## 3. 研究の方法

副読本に掲載された教材の読み直しを行って、その資料的価値を再発見することを中心的な課題とする。研究の具体的な成果物としては、教材のお話の中で考えるべき課題を再検討し、教師用指導書に掲載された模範指導案の中の発問や作業を見直し、改訂指導案を作成する。

書き直された指導案は、協力教員・協力学校に依頼して道徳指導の実践場面で使用し、その評価を行う。効果が得られたものについては、副読本・指導書の編集者・出版元に働きかけて指導案の改訂を提案すると共に、ホームページなどを通して授業実践に関して成果を広く公表・共有する。この研究が現場の教員の取り組みを触発できれば、教員自身による教材読み直しや発問の練り直しの活動が広がって、そこから道徳授業の指導改善が進む可能性もある。

副読本は、まず愛知・岐阜・三重の東海三県で使われているものを吟味し、その後、対象を拡大する。副読本は、各県や学校、教員など様々なレベルで採用されているものがあるため、できる限り広く収集し、効果的な教材や課題の再発見に努める。注目すべき指導についての情報も全国的に収集したい。同時に、このような副読本教材を通して行う道徳指導法の意義を、海外における道徳的指導についての情報収集によって相対的に確かめたい。

一方、このような教材と指導案を分析するための基本的な理論枠組みも構築する必要がある。研究チームのメンバーの個人研究の課題を援用し、考察の基礎を固めたい。川口は憲法や人権教育、笠井は学校環境や人間関係、古里は環境教育の観点から、学習指導要

領に示された内容項目を参考に、それぞれの読み物資料が持っていると考えられる道徳的指導の価値を再構築する。

#### 4. 研究成果

まず国内研究については、国内の道徳教材資料の収集・分析と合わせ、研究期間中に急遽進んだ「道徳の教科化」をめぐる政策展開への批判的分析に時間を割くこととなった。国内研究についてその成果は以下の通りである。(1) 大手民間出版社発行の副読本と愛知県・埼玉県・静岡県のそれぞれの教育委員会関係者・教員作成の副読本を入手し、分析を行った。地域教材と呼ばれる埼玉県の副読本では、3・11以降、自己犠牲を美德とする読み物が出現しており、これについて改定教育基本法における公共の精神や愛国心の強調とも関連付けながら、道徳教育における科学性・客観性の欠如とともに批判的分析を行った。(2) 民間出版社の副読本については、読み物教材として設定された場面において合理的・主体的行動の判断の余地を認めておらず、児童生徒の判断や行動の範囲を狭めるおそれがあることや現実的な判断・行動との乖離（現実味のなさ）を指摘した。(3) 安倍政権が進める道徳の「教科化」に関する政策分析については、教育再生実行会議・中央教育審議会の審議録や提出文書を主な分析対象として分析を行った。改定教育基本法第2条(教育目標)にある徳目の実質化を図る「教科化」であること、とくに愛国心に関しては成績評価・国定教材作成をとおして、子どもの内心の自由を侵害する恐れがあること、教員の専門性や市民的自由にもとづく指導との矛盾が生じうること、グローバル人材育成路線の大学改革とも整合性を有することなどを指摘した。(4) 具体的な教材開発として、働く権利・ルールの指導をとりあげ、弁護士・労働組合職員による教育実践を分析し、学習指導案への一般化・モデル化を模索した。

つづいて、海外研究として、福祉国家フィンランドをとりあげた。初年度のフィンランドにおける道徳教育の実地調査では、愛国心・公共の精神などに日本で強調されている価値観がいかに指導されているのか、また福祉国家を支える市民性（市民の主体性）をいかに育成しているのかという観点から、日本における中学生から高校生にあたるクラスにおける宗教、人生観教育、社会学の授業を参観した。そこでは、(1) 学校教育では愛国心や宗教心について扱わないこと（家庭教育の範疇）、(2) 客観的な事実を示した上で、生徒にそれらにもとづく思考や判断、行動を促していること（講義形式とディスカッション形式の授業の併用）、(3) EU加盟後の移民の受け入れに伴い、多様性への理解についての指導が強調されていること、(4) 具体的場面（親友に忠告をするとき、親に嘘がばれたときなど）を設定し、ロールプレイングを伴いながら、自身の判断や行動を考えさせる指導がなされていたことなど、実際の授業やインタビューを通して見聞を得ることができた。2年目の実地調査では、とくに移民との共生に着目し、移民の準備教育（移民成人向け高校）や移民の多い学校での学習指導・クラス運営、また学校外のアフタヌーン・アクティビティ（学童保育＋母親教室）でのヒアリング調査・活動観察を行った。(1) 移民に対するフィンランドへの愛国心の涵養はなされていないこと（少なくとも明示的・意図的・計画的な愛国心教育はない）、(2) 移民に対しては道徳教育・宗教教育よりも言語教育、生活指導に力点が置かれていること、(3) 移民に対しては母国の文化を尊重させていることなどが、実際の授業・インタビューで見聞することができた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2件)

- ・笠井尚・高林徹雄「教職課程学生の教育方法に関する力量獲得の課題」『中部大学教職課程年報』第2巻、2015年、15-22ページ(査読無)
- ・笠井尚・三島浩路「教育実習を活かした教職実践演習の取り組み」『教師教育研究』第28巻、2015年、99-109ページ(査読無)

〔学会発表〕(計 5件)

- ・古里貴士「学校と職業の狭間で」、大学評価学会第12回全国大会第2分科会(招待講演、於神戸学院大学)、2015年3月。
- ・笠井尚「道德教育の強化と方策 教材の内容と読み方についての検討」、あいち民主教育研究所公開シンポジウム(招待講演、於日本福祉大学)、2014年12月。
- ・笠井尚「道德教育の新たな教材 「江戸しぐさの正体」を読む」、東海教育自治研究会定例研究会(於名城大学)、2014年10月。
- ・古里貴士「フィンランド道德教育調査報告」、東海教育自治研究会定例研究会(於名城大学)、2013年4月。
- ・川口洋誉「教育の目標と愛国心教育」、東海教育自治研究会定例研究会(於名城大学)、2012年8月。

〔図書〕(計 4件)

- ・甲村和三編『キャリア教育を学ぶ 若者の進路選択をめぐる心理と教育』学術図書出版、2015年(総ページ数222頁)。
- ・榊達雄・早川教示・片山信吾編『教育実践と教職員 教職理論の課題』大学教育出版、2014年(総ページ数184頁)。
- ・川口洋誉・中山弘之編著『改訂版 未来を創る教育制度論』北樹出版、2014年(総ページ数233頁)。
- ・笠井尚編『教頭のフットワーク・ネットワーク』教育開発研究所、2013年(総ページ数189頁)。

6. 研究組織

(1)研究代表者

川口 洋誉 (KAWAGUCHI, Hirotaka)  
愛知工業大学・基礎教育センター・准教授  
研究者番号：60547983

(2)研究分担者

笠井尚 (KASAI, Hisashi)  
中部大学・全学共通教育部・教授  
研究者番号：10233686

古里貴士 (Furusato, Takashi)  
東海大学・課程資格センター・講師  
研究者番号：00610271